大気社

大気をまもり、未来をひらく。

第82期 中間期

Taikisha VIEW

2026.4.1 ▸ 2026.9.30

証券コード:1979



株主の皆さまへ

To Our Shareholders

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、
厚く御礼申しあげます。
さて、このたび当社第82期中間連結会計期間
(2026年4月から2026年9月まで)を終了しましたので、
概況につきましてご報告申しあげます。

代表取締役社長　長田 雅士

当中間連結会計期間の事業環境について

当中間連結会計期間の世界経済は、米国の相互関税をはじめとする通商・経済政策動向の不確実性や、東欧や中東などの地政学的なリスクの長期化、各国の物価情勢や金融・資本市場の変動などを背景に、先行きの不透明感が続いています。米国経済は、資金調達環境への懸念はあるものの、AI関連需要を背景とした設備投資の拡大や株価上昇による資産効果に支えられ、概ね底堅く推移しました。中国は、AI関連製品や自動車を中心に輸出が堅調に推移した一方、過去の消費刺激策の効果の一巡等を背景に、内需の低迷が続いています。東南アジアは、AI・半導体関連の輸出や投資が景気を下支えし、経済成長が続く一方、成長の見通しには各国でばらつきが見られます。日本経済は、米国の通商政策が自動車産業を中心に影響を及ぼしたものの、雇用・所得環境の改善や堅調な設備投資を背景に、緩やかな回復基調を維持しました。

当社グループにおける市場環境につきましては、海外市場ではEV関連投資など世界経済の減速懸念はあるものの、設備投資は堅調に推移しました。一方、国内市場では電子部品、半導体関連やデータセンター関連の投資が継続しており、都市圏における再開発の需要も堅調に推移しました。

当中間連結会計期間の業績について

大気社グループにおける当中間連結会計期間における受注工事高は、海外は減少したものの国内は大幅に増加し、1,845億16百万円(前年同期比1.7%増加)となり、うち海外の受注工事高は、621億88百万円(前年同期比40.2%減少)となりました。

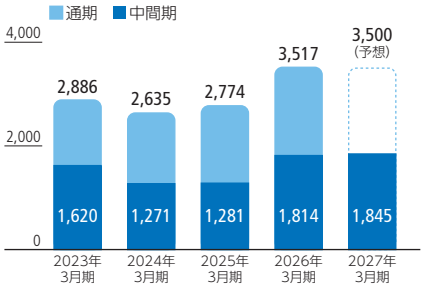
完成工事高は、国内は減少したものの海外は増加し、1,326億36百万円(前年同期比1.7%増加)となり、うち海外の完成工事高は、660億20百万円(前年同期比10.8%増加)となりました。

利益面につきましては、完成工事総利益は238億30百万円(前年同期比3億49百万円減少)、営業利益は89億49百万円(前年同期比15億20百万円減少)、経常利益は97億44百万円(前年同期比12億91百万円減少)、親会社株主に帰属する中間純利益は61億37百万円(前年同期比13億32百万円減少)となりました。

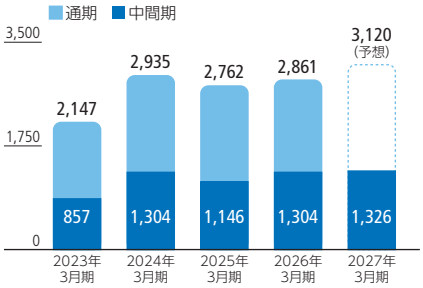
業績・財務ハイライト

Financial Highlights

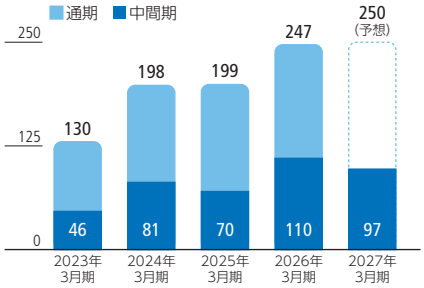
受注工事高（億円） 1,845億円 前年同期比 1.7%



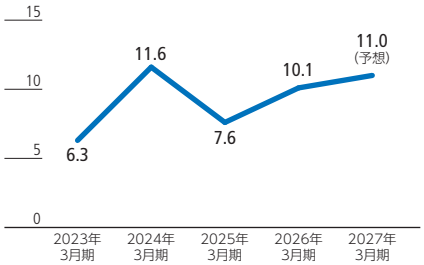
完成工事高（億円） 1,326億円 前年同期比 1.7%



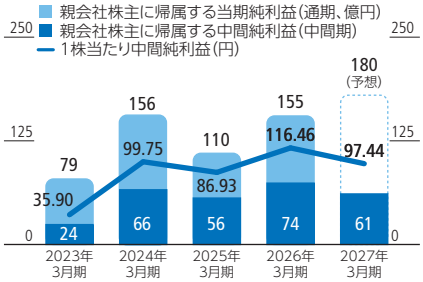
経常利益（億円） 97億円 前年同期比 11.7%



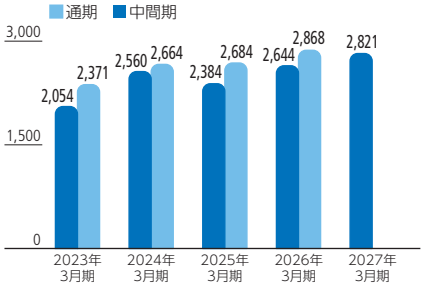
ROE（%） 11.0% 前期比 0.9pt



親会社株主に帰属する中間純利益（億円）/1株当たり中間純利益（円） 61億円/97.44円 前年同期比 17.8%



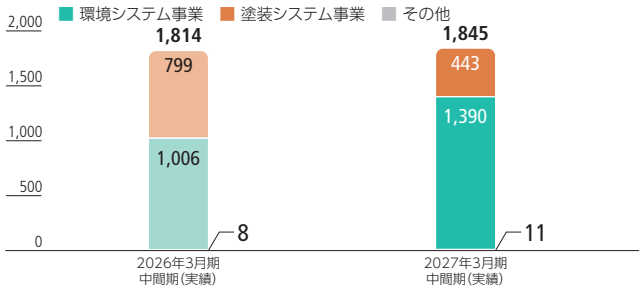
総資産（億円） 2,821億円 前年同期比 6.7%



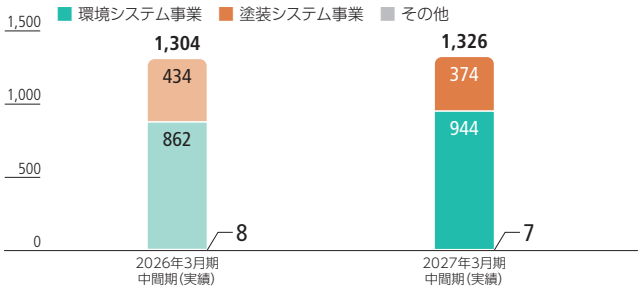
※2025年4月1日付けで普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を実施。
2025年3月期以前の1株当たり中間純利益については、当該株式分割が行われたと仮定し算定。

セグメント別業績推移

受注工事高（億円） 環境システム事業 1,390億円 前年同期比 38.1% 塗装システム事業 443億円 前年同期比 44.5%



完成工事高（億円） 環境システム事業 944億円 前年同期比 9.6% 塗装システム事業 374億円 前年同期比 13.8%



※2027年3月期よりセグメント区分を変更。それに伴い、2026年3月期中間期実績は当該区分に組み替えて表示。

環境システム事業

受注工事高	1,390億円	Point	産業空調分野の国内での、電子部品や半導体関連の受注により大きく増加。 ビル空調分野では大型案件の受注により前年同期と同水準を維持。
完成工事高	944億円	Point	ビル空調、産業空調の海外において手持ち工事が順調に進捗し増加した。

塗装システム事業

受注工事高	443億円	Point	国内は前年同期と同水準を維持したものの、海外は前期に欧州で獲得した大型案件が剥落したことで減少。
完成工事高	374億円	Point	国内海外ともに前年同期のような大型案件の出来高寄与が少なく減少。

中期経営計画の進捗について

Progress of the Medium-Term Business Plan

2026年3月期から2028年3月期までの3か年における当社グループの中期経営計画の進捗について、ご報告申しあげます。当社は今後もすべてのステークホルダーから高い信頼と評価を得られるよう、経営目標達成のために全力を尽くしてまいります。引き続き変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

実績および進行中の取り組み

10年プラン2035の主要戦略		中期経営計画期間中の実績および進行中の主な取り組み
事業戦略	Ⅰ.「成長産業」への積極展開 ・産業構造の改革が進展する「先端産業領域」を攻める	・半導体・バッテリー・製薬関連などの成長産業の顧客との関係構築を推進。 ・事業部間シナジー領域であるバッテリー分野における相互の人材派遣、技術交流、およびBASC（電池サプライチェーン協議会）に参画。インド市場開拓に向けた調査、検討を実施。 ・ドライ加飾システムのデモラインで、四輪顧客向けの品質検証実施中。ドライ加飾プロセスを利用した建材向けフィルムでフィルムメーカーと協業開始。 ・重点注力市場における戦略的出資を実行。
	Ⅱ.グローバルな「地域戦略」 ・グローバルネットワークの活用と増強 ・成長性の高い海外市場を攻める	・インドの連結子会社 Nicomac Taikisha Clean Rooms Private Limitedによるクリーンルームパネル生産能力の増強および、インド国内における空調事業の推進。 ・北米グループ会社のEncore Automation LLCによる北米オートメーション会社のM&A実施。人材リソースおよび技術・顧客基盤の強化。 ・協力会社組織TPG（Taikisha Partners Group）会員 1,465社、採用支援実績 2名。優良職長表彰制度等のインセンティブ制度を開始。 ・プロダクトマネジメント活動として、TPG-Fabを活用した施工のユニット化の促進。
	Ⅲ.「非日系企業」の開拓 ・日系企業中心の顧客ポートフォリオを変える ・グローバル成長を遂げる非日系企業を攻める	・台湾を中心とした東アジア半導体戦略のための体制構築および業界団体への入会、アプローチ実施。 ・各地域での戦略に合わせた地域戦略部を新設。 ・シンガポールに「アセアン統括部」を設置。ASEANにおける国を超えた営業体制構築。国をまたぐリピート受注を獲得。 ・非日系顧客・新規顧客のニーズに対応できるグローバルでの開発拠点の連携強化。
「知的資本」の増強	Ⅳ.「GX&DX技術」の高度化 ・カーボンニュートラルやデジタルシフトに伴い高度化するニーズに応えるために、GX/DXエンジニアリング技術の研究開発を強化	・精密温調チャンバー※の生産能力拡大に向けた体制構築。 ※ 半導体製造において装置まわりや、超精密加工や測定、検査を可能にする環境空間を構築する設備 ・エネルギーマネジメントシステム（EMS）推進のための体制構築と独自の制御技術にAIを融合した空調管理システムを開発。客先施設への導入・検証実施中。 ・設計を伴う物件におけるCO_2削減提案とともに、客先製造工程に最適なエンジニアリング提案を継続実施。 ・大気中のCO_2を直接回収する「ダイレクト・エア・キャプチャー（DAC）」のNEDOムーンショット型研究開発事業が進行中。 ・データセンター向け冷却ソリューションの検討開始。消音設備の展示会への出展実施。
「人的資本」の増強	Ⅴ.質的・量的拡充とビジネスプロセス変革 ・リソース不足に起因する「ビジネス機会の喪失」の撲滅へ ・「人的資本の拡充（質的・量的）」と「ビジネスプロセスの合理・効率化」	・グローバル研修を実施。ナショナルスタッフを中心としたグローバル経営人材の育成推進。 ・戦略的人材配置に向けた人材ポートフォリオの可視化実施。 ・施工プロジェクトにおける人材の適正配置を計画するソフトを開発。試験運用を実施中。 ・リーダー層の多様化を目的に、女性の管理職候補を対象とした研修実施。 ・従業員のエンゲージメントの意識調査であるパルスサーベイを定期的に実施。課題を抽出。あわせて、制度の浸透に向けた施策を検討。
「経営基盤」の強化	Ⅵ.「事業推進・モニタリング体制」の強化	・10年プラン2035で掲げた成長戦略会議を設置し、10年プラン達成に向けた討議開始。 ・事業部別・拠点別のROIC目標の策定と浸透活動実施。 ・日本格付け研究所（JCR）より新規格付「A 安定的」を取得。 ・新規事業開発・研究開発部門等を事業開発本部に集約（セグメント開示上はその他に区分） ・新規事業開発委員会にて、新規テーマのゲート審査を行う仕組みを構築。ゲート審査の実施。 ・事業投資委員会にて、出資・M&A案件に関する協議を継続して実施。
	Ⅶ.「グループグローバル経営基盤」の強化	・グループ全体の経営情報を一元管理し予測・シミュレーションを可能とするグローバル経営基盤を構築中。 ・10年プラン達成に向けたパーパス・ビジョン・バリューズ（PVV）を策定し、各拠点への浸透活動を実施。
DX戦略	Ⅷ.データ分析とシミュレーションを活かした新しい価値の提供 ・海外拠点間の国・地域を超えた連携・共創の促進、デジタル基盤を核とした業務プロセス改革による業務効率化と高収益体制の構築	・BIMをはじめとする現場DXアプリケーションの実プロジェクトでの運用検証。 ・BIMプラットフォーム構築のための検証実施中。下期に国内展開を見込む。 ・ドライ加飾システムや乾燥炉システムへのシミュレーション技術の活用。

トピックス　データセンター向け液体冷却システムの開発開始、展示会でのPRを開始

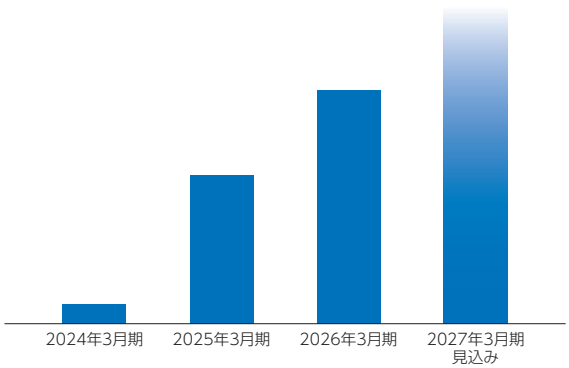
データセンター向け冷却ソリューションの強化

- 当社では、数年前からデータセンターの受注が増加。今後、データセンターの冷却方式は多様化が見込まれる。
- 10年プランに掲げた新たな冷却方式の開発を開始。
- 従来の空冷方式に加え、液冷方式の技術を獲得することで、総合的な冷却システムの設計提案など付加価値の高い事業領域への拡大を目指す。





● データセンターの受注工事高推移



事業の概要

Business Overview

環境システム事業　タマポリ 群馬令和工場が竣工

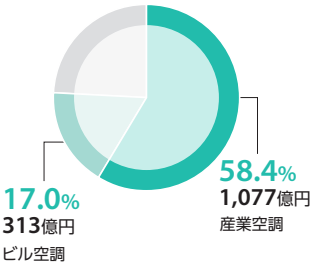
2026年11月、プラスチックフィルムおよび各種ラミネート製品を取り扱うタマポリ群馬令和工場が竣工しました。

本工場は、次世代を担う「災害に強く」「人に優しい」「高生産性」「高効率」を備えたスマートファクトリーで、地域への経済的な貢献も目指しています。当社はクリーンルームを含む空調設備、生産ユーティリティ設備工事を担当し、機器類のユニット化と現場DXを推進することで、工程短縮と現場の社員・協力会社作業員の大幅な負荷低減を実現しました。



● 環境システム事業 受注高

累計期間:2026.4.1～2026.9.30



塗装システム事業　Maruti Suzuki India Limited（MSIL）のカルコダ工場第二ラインが稼働開始

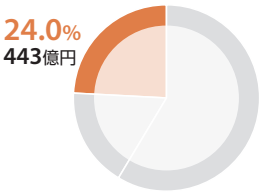
2026年5月、スズキのインドにおける四輪子会社Maruti Suzuki India Limited（MSIL）のカルコダ工場第二ラインが稼働開始しました。

当社は本工場で、塗装ライン構築（電着工程等を除く）を担当し、ドライブース化対応やオートメーション技術を提供しました。当社は1995年から30年以上、MSIL向けにボディー・バンパーなど塗装工場の主要設備を継続的に納入し、生産基盤強化に貢献してきました。MSILはインドでの生産能力を現状290万台から2030年度以降に400万台へ引き上げる計画を掲げており、当社は今後の新工場にも対応予定です。MSILをはじめ、インドでは主要自動車メーカー各社が増産・新工場投資を進めており、本工場はその一つです。今後もCO_2削減や省エネルギーにつながる塗装技術で、お客さまのニーズ実現に貢献していきます。



● 塗装システム事業 受注高

累計期間:2026.4.1～2026.9.30



Column

インド市場　インドでは、自動車に加え、建設機械・農業機械・バス・鉄道車両など、幅広いモビリティ分野で設備投資が加速しています。当社はこうした活況な市場を取り込むべく、日系メーカーに加え、現地メーカーに対しても積極的に受注活動を展開しています。また、自動車産業の発展に伴う部品加工関連の設備など、周辺分野への事業拡大も視野に入れて取り組んでまいります。さらなる受注機会の拡大に対応すべく、インドでの組織体制の強化を推進していきます。

トピックス

Topics



大気社グループ、理念体系を刷新

当社は、2025年に「10年プラン」を策定しました。新たな成長に向け大きな一歩を踏み出した今、変化の激しい時代において大気社グループ全体で同じ志を持って次の未来に踏み出すための指針として、新たにパーパス・ビジョン・バリューズ（以下、PVV）を策定しました。

策定にあたっては、半年以上にわたり、海外拠点を含むグループ社員へのアンケート調査、社員参加型ワークショップ、ナショナルスタッフやお客さまへのヒアリング、経営陣と従業員との対話などを重ね、多様な意見を取り入れながらPVVを一つの形へと磨き上げました。

浸透活動

PVVは策定して終わりではなく、浸透に向け、国内外でタウンホールミーティングやワークショップを開催しています。社長・経営企画本部長が拠点を訪問し、グループワークを通じて、従業員一人ひとりがPVVを自身の業務の中でどのように生かせるか考えアクションにつなげるための機会を設けています。



2027年3月期通期業績予想

決算説明資料
https://www.taikisha.co.jp/ir/library/presentation/pdf/pdf-index-20261110-01.pdf

FY2026 Earnings Forecast

当社グループにおける市場環境の見通しにつきましては、国内外において、半導体関連メーカーやデータセンター関連の需要が高まっており、引き続き設備投資が継続すると予想しています。また国内のオフィスビルの需要は都市圏を中心に底堅く推移すると考えています。自動車メーカーに関しては、欧州・北米・日本などでは設備更新投資、インドなどでは増産投資が見込まれており、需要は底堅く推移すると想定しています。

受注工事高	3,500億円 期初予想数値 3,305億円	前期比 0.5%	期初予想比 5.9%	Point 上期から継続して下期においても複数の中・大型案件の受注を見込んでいることから過去最高水準の受注を想定。
完成工事高	3,120億円 期初予想数値 3,070億円	前期比 9.0%	期初予想比 1.6%	Point 当期において計画を上回る受注を獲得し、その一部が出来高として寄与することから上方修正。
経常利益	250億円 期初予想数値 250億円	前期比 0.8%	期初予想比 –	Point 塗装システム事業について下方修正したものの、環境システム事業の採算性改善により全社では過去最高の経常利益となる見込み。
親会社株主に帰属する当期純利益	180億円 期初予想数値 180億円	前期比 15.4%	期初予想比 –	
1株当たり当期純利益	285.77円 期初予想数値 285.72円	前期比 16.6%	期初予想比 0.0%	

株主還元

Shareholder returns

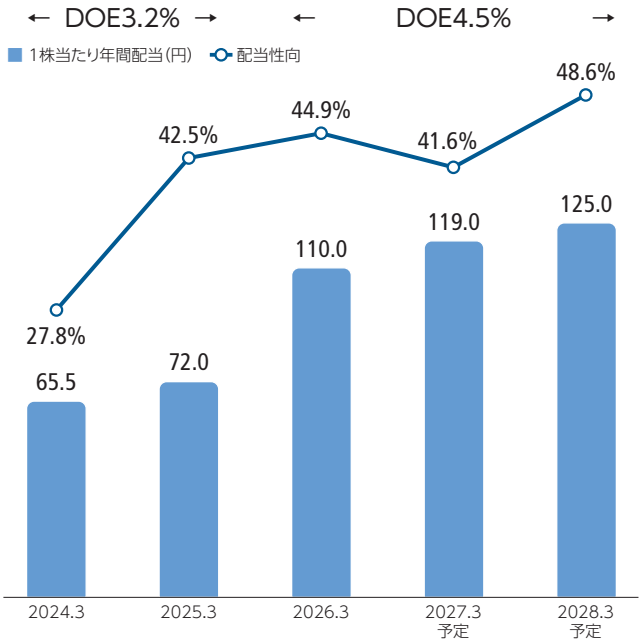
配当方針

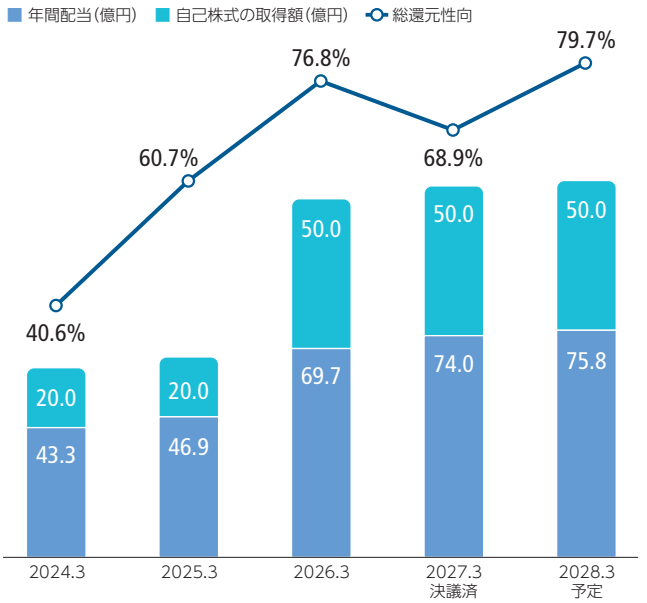
連結自己資本配当率(DOE)4.5%を目標とし、安定的な配当を実施。(2026年3月期より比率を見直し)

2027年3月期年間配当金は119円に増配予定。

自己株式取得の方針

資本効率の向上と機動的な財務政策の実現を目的として、2026年3月期より開始した中期経営計画期間において、自己株式の取得を年間50億円実施する計画です。
(2027年3月期は、2026年8月7日の取締役会において50億円の取得を決議済み)





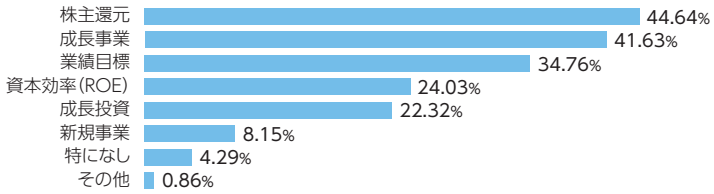
※2025年4月1日付けで普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を実施。
2025年3月期以前の年間配当金額については、当該株式分割が行われたと仮定し算定。

株主様アンケートの結果報告

ネットでアンケート
Provided by TAKARA Printing

2026年6月～2026年7月にかけて実施いたしました「株主様アンケート」では、多くの株主の皆さまからご回答を頂戴いたしました。
皆さまのご協力に感謝を申しあげますとともに、頂戴しました貴重なご意見は今後のIR活動等の参考とさせていただきます。
以下に、株主様アンケート結果の一部を掲載いたします。

Q 当社の10年プラン/中期経営計画の内容や今回の修正について評価できるものはありますか。



株主の皆さまから寄せられたご意見・ご要望
(一部抜粋)

- 若手社員の紹介が良かった。
- 現場の様子など、画像を増やして伝えてほしい。

今後も株主の皆さまとの対話を大切にしながら、
当社の魅力を発信していきます。

世界中で活躍する大気社

大気社は海外19か国に28社の
連結子会社を有しています。
(2026年9月末現在)



拠点紹介

Taikisha (Thailand) Co.,Ltd.

Taikisha (Thailand) Co.,Ltd.(以下、大気社タイランド)は、1971年6月の設立以来、タイに根差して事業を展開し、今年で設立55年を迎えました。これもひとえに、お客さま、協力会社をはじめとするステークホルダーの皆さまのお力添えの賜物であり、心より感謝申しあげます。

大気社タイランドは新たなパーパス・ビジョン・バリューズ(2026年6月策定)を体現し、10年プラン達成に向けた取り組みを推進しています。

VISION「世界の知を、現場のカタチに。」の実例として、米国大手クラウド事業者による大規模データセンター投資計画において、非日系ゼネコンのもと空調・電気設備工事の大型プロジェクトを受注しました。施主様の、グローバル標準の高い品質要求に応えるべく、プロジェクトチームはほぼタイ人スタッフで編成し、一丸となって工事に取り組んでいます。「One TAIKISHA, One TEAM」の精神のもと、環境システム事業部と塗装システム事業部が共同して、それぞれの強みを活かしながら本プロジェクトを推進しています。さらに、今後のASEAN地域におけるデータセンター投資の拡大を見据え、大気社フィリピン、ベトナムより技術スタッフの派遣を受け入れ、グローバルな拠点横断での連携とナレッジ共有を行っています。

わたしたちは、「Open Challenge」な基本姿勢を旨として非日系顧客の開拓を加速させ、各社員が「Ownership」を持って主体的に創意工夫と最善な行動を重ねることにより、売上・利益拡大の好循環を実現していきます。引き続きご支援を賜りますようお願い申しあげます。

グローバルな人材育成 (グローバル研修)





Taikisha (Thailand) Co.,Ltd.
Pongsatorn Matmool



大気社では、グローバルな視点を持って指導力と実践力を発揮できる経営人材を育成するため、約1年間にわたる「グローバル研修」を設けています。本制度のもと、2026年度は海外拠点から9名(うち日本人出向者3名)、国内から6名の計15名が活動しています。今回はタイの拠点から研修に参加している社員の声をご紹介します。

大気社では、ミャンマーで2年、ラオスで5年、タイで10年以上勤務しています。それぞれの国でそれぞれ異なる業務環境と困難があり、異なる文化や商慣習、ローカルな事情に柔軟に対応していく必要がありました。こうした経験を通じて、多様なバックグラウンドを持つ人々と働くうえで、柔軟性やコミュニケーション、そして相互理解がいかに重要であるかを学びました。プロジェクトで成果を上げるだけではなく、自身の技術的な知識や実務経験を現地のスタッフに共有し、彼らのスキルアップや組織の成長につなげてきました。知識の共有と継続的な学びこそが、真のグローバル企業を築くうえで不可欠であると確信しています。

グローバル研修への参加により、分析的思考力や問題解決能力、自身のアイデアを効果的に伝える力がより一層鍛えられました。異なる国々の同僚とのディスカッションやグループワークを通じ、リーダーシップやチームワーク、グローバルなビジネス視点に関する貴重な知見を得ることができました。

本研修で得た知識と経験は、私の現在の日常業務においても大いに活きています。今後はさらに、自分の学びを次世代の社員へと引き継ぎ、彼らの成長と大気社グループの持続的な成功に貢献していくことが重要と考えています。

株式会社 大気社
〒160-6129
東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー
TEL:03-3365-5320(代)　FAX:03-5338-5195
https://www.taikisha.co.jp

Naturalus Printing. Naturally.
nonVOC
FSC www.fsc.org ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C022915
UD FONT